

予算の特徴

魚沼市にとって「平成17年度予算」は、最初の年間総合(通年)予算であり、その大勢を合併前の協議では、新市建設計画に基づいた市の速やかな一体性及び地域間格差の是正を図るための事業や、市民とのパートナーシップによるまちづくりを進めるために必要な事業に重点的に配分することにしていました。

しかし、合併直前の昨年10月23日に発生した「新潟県中越大震災」では、一般住宅をはじめ、道路、上下水道、電気、都市ガスなどのライフライン、公共施設等にかつてない被害をもたらしました。

このため、市民の安全・安心を早期に確保するため、震災復旧・復興事業を最重要施策と位置づけながら、『人と四季がかがやく 雪のくに』の実現を図る予算としました。

○暮らし再発見 雪のくにまちづくり(生活・都市環境)

市民生活の利便性を高め、安心して暮らしやすい環境を整えるほか、魚沼市としての一体感・統一感を早期に醸成する必要があります。

震災による復旧を最優先課題とするものの、日常生活に不可欠な幹線道路を中心とした道路網の整備、市内循環バスの整備、サインづくり推進事業など生活交通の確保対策とともに、地域の一体感の醸成を図ります。

若年層の地元定着を図るため、公的住宅の整備を図るとともに、中山間地域の活力ある事業活動を支援するため、魚沼市の魅力を内外にPRし、地域イメージの再構築を図ります。また、震災を教訓として、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを早期に実現するため、地域防災体制の見直し、情報通信基盤の整備、非常用物資の備蓄、防災訓練の実施、ハザードマップの整備を進めます。

○色とりどりの四季と人が共生するまちづくり(自然環境)

豊かな自然がおりなす美しい四季のすがたや山間地域・田園地域の原風景は、先人たちがつくり守り続けてきたかけがえのない財産であり、これを後世まで引き継いでいかなければなりません。

今日、自然と共生する施策の展開は不可欠であり、環境保護と経済的な発展を両立するため、資源循環型社会の構築は急がなければならない課題です。とりわけ、廃棄物等の発生抑制、再使用、不法投棄の防止策を進め、「ごみの減量化」をめざします。

また、自然の恵みを活用し、地域の潜在的な活力を引き出すため、新エネルギービジョンに基づく新エネルギーの導入や低公害車の普及を図ります。

○健康で安心して暮らせる医療と福祉の充実したまちづくり(保健・医療・福祉)

乳児から高齢者までのだれもが明るくいいきと暮らせるまちをめざして、保健・福祉・医療体制の強化を図る必要があります。

高齢者運動教室などの介護予防事業を積極的に展開し、高齢者の健康保持とともに、老人医療による社会的負担の軽減を図る。また、公共空間のバリアフリー化を進め、高齢者、障害者が生きがいをもって積極的に社会参加できる環境整備を進めます。

女性の社会進出による晩婚化や核家族化による育児負担が増加していることから、次世代育成支援対策推進行動計画の策定を契機に、家庭や地域と連携しながら各職域(事業所)の子育て環境の整備を進めます。

市民の安心と利便性を図るため、地域医療のネットワーク化を図り、魚沼地域における高度医療機関の整備を促進します。

○技術を育て地域産業を創るまちづくり(地域産業)

地域産業の振興と雇用機会を確保するため、企業誘致を積極的に推進するとともに、ベンチャー企業の育成や異業種交流を進めます。また、既存商店街の活性化を図るため、特色あるイベントや魅力ある商店街活動を支援します。

農業については、震災によって農地をはじめとする生産施設に大規模な被害を受けており、花卉・園芸作物やコシヒカリの生産環境の復旧・復興に向けて重点的に取り組みます。

一方、地元農産物の販売力強化を図るため、特産品のブランド化を進め、既存ブランドについては、それらを利活用した製品・商品の開発を進めるなど農業と他産業が連携しながら付加価値の高い産業の振興を図ります。

観光については、新潟県、周辺市町村及び観光協会と連携し、風評被害を克服するとともに、市内観光資源の有機的な連携を図り、効率的かつ効果的な運営による新たな観光地づくりを進めます。

○私たちがつくる新しい学びのまちづくり(教育・文化)

次世代を担う子どもたちの明るく健やかな成長を図るため、地域に密着した開かれた学校づくりとともに、学校施設の環境整備を進め、質の高い教育の実現をめざします。

教育については、「ゆとり教育」から「確かな学力と創造性」を身に付けさせる教育への転換に対する動向を踏まえ、学力の向上や総合学習、食育などのあり方について幅広い議論を得ながら学校教育の活性化を図ります。

また、生涯学習の拠点となる新図書館の整備をはじめ、公民館活動や総合型地域スポーツクラブの活動を支援するほか、競技スポーツ、クラブチームの育成・支援を図ります。

芸術・文化活動については、小出郷文化会館や宮柵二記念館の活動を一層充実させ、市民による文化のまちづくりを進めます。

○パートナーシップで創る参画と自立のまちづくり(運営のシステム)

市民起点による魅力あるまちづくりを推進するため、住民と行政が協働する新たな「市民参画システム」を構築します。

また、地域の自治機能を高めるため、旧来の集落区や町内会などの再編をはじめ、コミュニ

ティの自主的な活動を支援します。

行財政運営の効率化・合理化をめざし、マネジメントサイクルを確立するため、政策指標の設定、行政評価システムの導入を検討・研究します。